
2022年度決算 及び
2023年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社

2023年5月11日

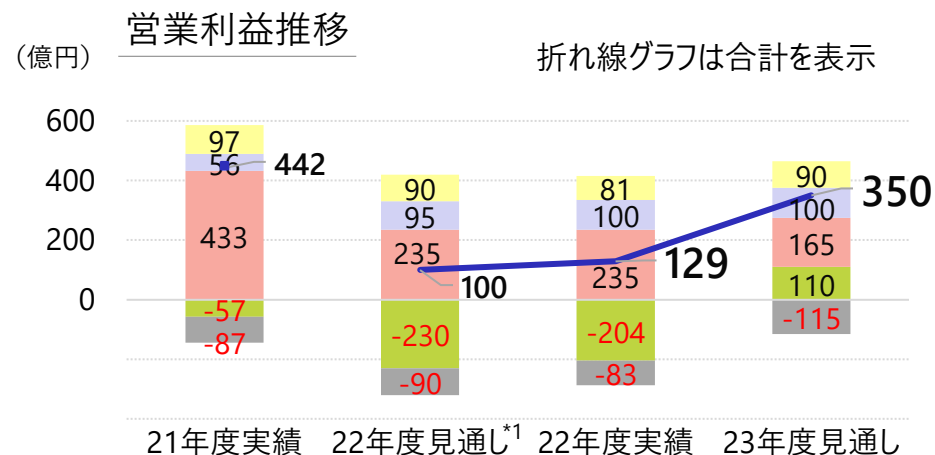
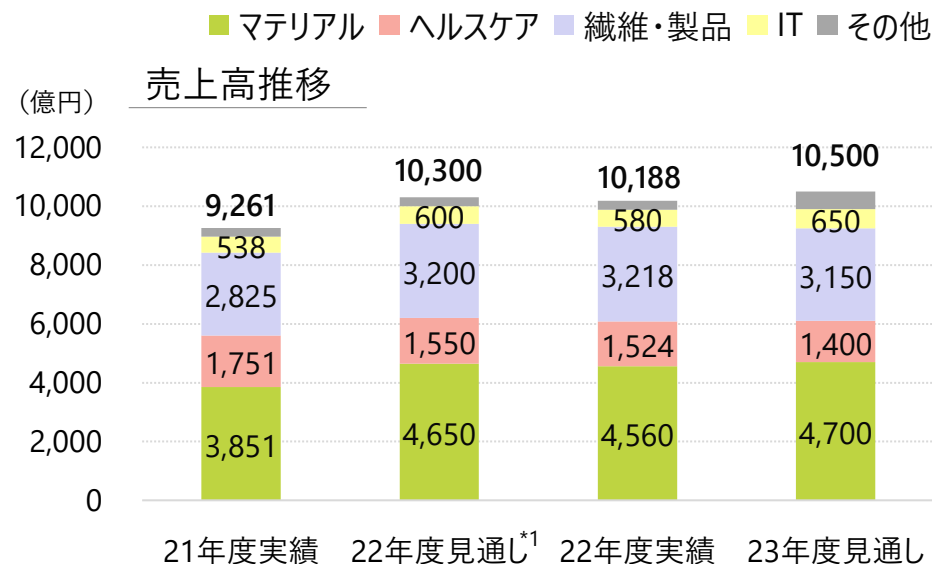
今回公表のポイント

■2022年度実績（前年度対比）

- 売上高は10.0%増の1兆188億円となるも、営業利益は70.9%減の129億円（前回見通し対比で28.6%増）
 - マテリアル：原燃料価格高騰を販売価格改定でオフセットしたが、米欧拠点での生産トラブルや労働力不足、中国の経済減速等の影響で減益となり営業赤字（▲204億円）
 - ヘルスケア：医薬品「フェブリク」の後発品参入や薬価改定等で減益
- 当期純損益は減損損失の計上や海外子会社の赤字幅拡大等に伴う税負担率の上昇により、177億円の損失（前期は232億円の利益）

■2023年度業績見通し（前年度対比）

- 課題3事業（アラミド、複合成形材料、ヘルスケア）について、2月公表の「収益性改善に向けた改革」を実行
- 売上高は3.1%増の1兆500億円、営業利益は172.1%増の350億円を見込む
 - ヘルスケアは「フェブリク」の年間通しての後発品参入の影響を見込むも、上記マテリアルの改善施策の発現と前期の一時的な生産トラブル影響の解消により増益を見込む
- 当期利益は130億円の見込み（前期は177億円の損失）
- 年間配当見通しは30円
（2022年度期末 12.5円/株 ⇒ 2023年度中間・期末とも 15円/株）



*1 2023年2月8日公表

当社の主要ターゲット市場の前提（2022年度～2023年度）

自動車用途を中心に、需要は全般的に堅調の見通し

事業		市場	主な地域	2022年度実績	2023年度見通し
マ テ リ ア ル	アラミド	自動車	欧州、米国	• 欧州での高級車/EV向けタイヤ需要が好調	• タイヤ用途を中心に引き続き需要は堅調
		産業資材	欧州、米国	• 光ファイバー用途は高水準な需要が継続	• 引き続き需要は堅調に推移
		防弾・防護	欧州、米国	• 防弾・防護とも需要は堅調	• 引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	事務機	中国、アジア	• 中国ロックダウンによる部品調達難及び需要減により、顧客の稼働が減少	• 低調な需要は当面継続するも、後半から徐々に回復の見通し
		自動車	日本、中国 アジア	• 半導体/電子部品不足により顧客での稼働が減少し、需要低調	• 低調な需要は当面継続するも、後半から徐々に回復の見通し
	炭素繊維	航空機	欧州、米国	• 旅客機利用者数の回復で旅客機需要は好調	• 引き続き需要は堅調に推移
	複合成形	自動車	米国、欧州 中国	• 半導体不足やサプライチェーンの混乱影響は緩和傾向も、OEMでの生産制約が継続	• 引き続き需要は堅調 • 半導体不足は徐々に解消の見通し
	繊維・製品	衣料繊維	欧米・中国 日本	• 欧米・中国の市況は堅調に推移するも、期後半からペースが減速 • 国内は行動規制の緩和により消費は回復傾向	• 欧米はインフレ・利上げにより市況は弱含み、中国はゼロコロナ政策終了による混乱から回復傾向 • 国内は回復傾向が継続
産業資材		日本、中国	• 自動車用途は回復基調であるが、半導体不足影響あり	• 半導体不足は徐々に正常化	

当社の主要ターゲット市場の前提（2022年度～2023年度）

事業	市場	主な地域	2022年度実績	2023年度見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	<ul style="list-style-type: none"> • 痛風・高尿酸血症患者数は拡大基調だが、後発品参入により市場規模（薬価売上）は縮小 • 糖尿病薬市場は微増も、厳しい競争環境が継続 	<ul style="list-style-type: none"> • リアル面談活動は増加も病院での訪問規制は継続が見込まれ、リアルとe-プロモーションのハイブリッド活動を展開する
			<ul style="list-style-type: none"> • COVID-19影響により病院では訪問規制が継続し、e-プロモーション強化が継続 	
	在宅医療		<ul style="list-style-type: none"> • 在宅酸素療法（HOT）市場では、入院抑制により在宅療養へのシフトが継続しているもののCOVID-19によるHOT導入は落ちつきつつある 	<ul style="list-style-type: none"> • 入院抑制は概ね解除され、COVID-19によるHOT導入は減少する
<ul style="list-style-type: none"> • 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続するが、COVID-19第8波等の影響により検査数の回復はやや鈍化 		<ul style="list-style-type: none"> • 拡大継続、検査数も緩やかに回復する 		
IT	電子コミック	日本	<ul style="list-style-type: none"> • 電子コミックにおける海賊版サイトの影響が軽減される中、市場の成長は継続 	<ul style="list-style-type: none"> • 今後も市場の成長は継続する

-
-
1. 2022年度決算 P. 5
 2. 2023年度業績見通し P.13
 3. 参考資料 P.24

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2023年5月11日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2022年度決算

◆ 実績ハイライト [前年度対比]

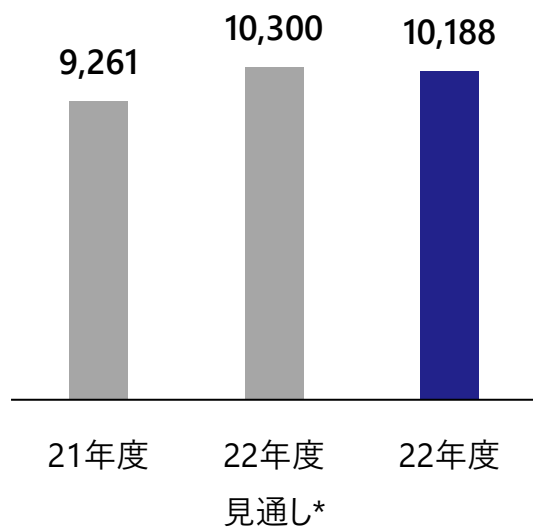
【売上高】原燃料価格高騰に対応した販売価格改定及び為替影響等により、全体で10.0%の増収

【営業利益】マテリアルは、原燃料価格高騰を販売価格改定でオフセットし、また為替影響による収益押し上げ効果もあったが、米欧拠点での生産トラブルや労働力不足、中国の経済減速による販売減等の影響で減益となり営業赤字。ヘルスケアは医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売減や薬価改定等で減益。全体では70.9%の減益（前回見通し対比で28.6%増）

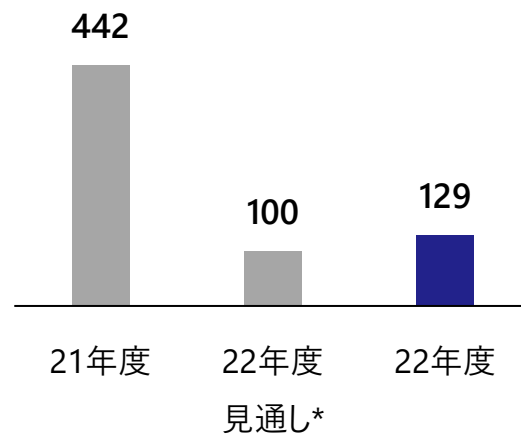
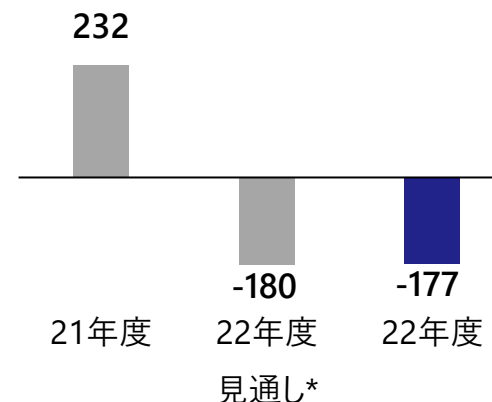
【当期純利益】営業利益減に加え、複合成形材料での減損損失の計上、海外子会社の赤字幅拡大等に伴う税負担率の上昇により、177億円の損失

(単位：億円)

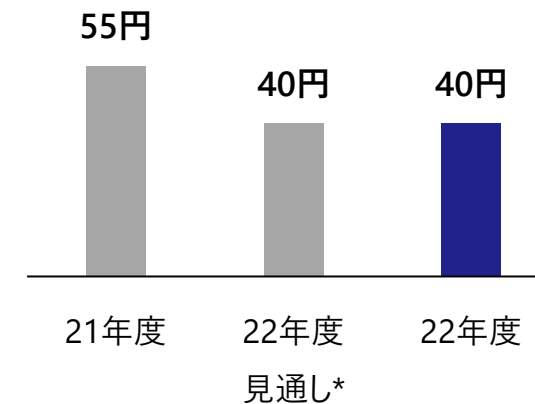
売上高

前年度対比
見通し*対比+10.0%
-1.1%

営業利益

-70.9%
+28.6%親会社株主に帰属する
当期純利益損失へ
損失幅若干縮小

一株当たり配当金

-15円
変更なし

*2023年2月8日公表

◆ 実績サマリー [前年度対比]

					(億円)	
	21年度	22年度	差異	増減率	(参考) 22年度見通し*1	
売上高	9,261	10,188	+927	+10.0%	10,300	
営業利益	442	129	-313	-70.9%	100	
営業外損益	55	-38	-92	-		
経常利益	497	91	-406	-81.7%	120	
特別損益	-56	-106	-50	-		
税金等調整前 当期純利益	441	-15	-456	-		
親会社株主に帰属する 当期純利益	232	-177	-409	-	-180	
ROE *2	5.5%	-4.1%	-9.6%	-	-4%	
営業利益ROIC *3	5.5% *4	1.6%	-4.0%	-	1%	
EBITDA *5	1,130	878	-252	-22.3%	850	

					(億円)	
	21年度	22年度	差異	増減率	(参考) 22年度見通し*1	
設備投資 *6 (設備投資 調整後※)	2,008	625	-1,383	-68.9%	600	
減価償却費 *7	688	749	+61	+8.9%	750	
研究開発費	333	319	-14	-4.2%	340	

※糖尿病薬販売権等承継による無形固定資産増（1,324億円）を除く

2022年度配当金（見通し*1から変更なし）
 中間 27.5円/株 期末 12.5円/株 年間 40円/株
 (2021年度：中間 27.5円/株 期末27.5円/株 年間55円/株)

◇ 為替・市況燃料価格

	21年度	22年度
PL換算レート		
円/米ドル	112	135
円/ユーロ	131	141
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	78	92
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)	69	116

*1 2023年2月8日公表

*2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*4 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

*5 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出

*6 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&Aは含まず）

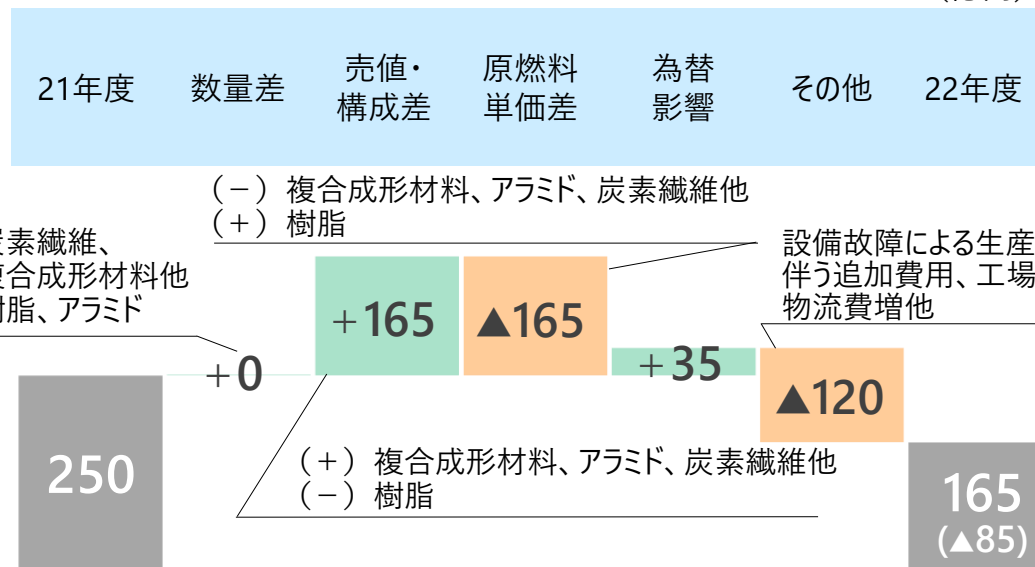
*7 のれん償却含む

◆ マテリアルセグメント [前年度対比]

	(億円)				(参考) 22年度見通し*1
	21年度	22年度	差異	増減率	
売上高	3,851	4,560	+709	+18.4%	4,650
EBITDA	250	165	-85	-33.9%	135
減価償却費	307	369	+62	+20.2%	365
営業利益	-57	-204	-147	-	-230
営業利益ROIC	-2%	-5%	-4%	-	-6%

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



■ アラミド繊維 (増収・減益)

- 原料工場の火災影響および生産性悪化により、販売量が減少
- 天然ガス価格上昇を受け、販売価格改定を実施もカバーしきれず
- 為替影響が収益を押し上げ

■ 樹脂 (減収・減益)

- 中国におけるCOVID-19の影響による顧客での稼働減少及び中国を含む世界経済減速の影響を受けて、販売量が減少

■ 炭素繊維 (増収・増益)

- 用途全般において需要は堅調
- 航空機向けの販売量が増加したことにより、販売構成が改善
- 主原料の価格高騰を受け、販売価格改定を実施

■ 複合成形材料 (増収・減益)

- 半導体などの部品不足が改善したことに加え、新大型プログラムの販売本格化もあり、販売量が増加
- 原材料価格の高騰を受け、販売価格改定を実施
- 設備故障による一時的な生産性悪化に伴う追加費用の発生
- 労働需給逼迫による労働力不足の継続

■ 電池部材 (増収・増益)

- セパレータのスマートフォン向けの需要が好調で、販売量が増加

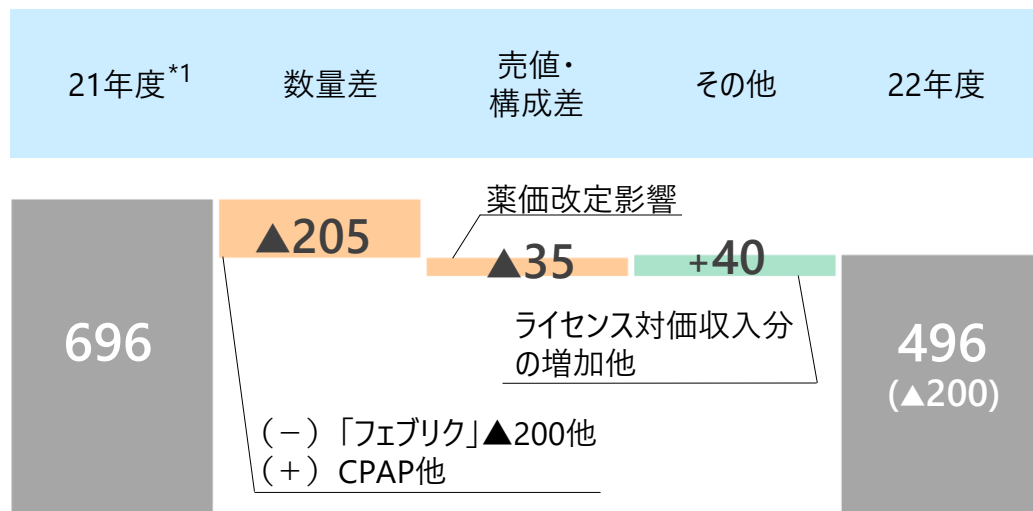
*1 2023年2月8日公表

◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比]

	(億円)				(参考)
	21年度 ^{*1}	22年度	差異	増減率	22年度見通し ^{*2}
売上高	1,751	1,524	-227	-13.0%	1,550
EBITDA	696	496	-200	-28.7%	500
減価償却費	263	261	-2	-0.8%	265
営業利益	433	235	-198	-45.7%	235
営業利益ROIC	21%	13%	-8%	-	12%

< EBITDA増減内訳 >

(億円)



*1 2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

*2 2023年2月8日公表

■ 医薬品

- 2022年6月に「フェブリク^{*3}」の後発品が参入し販売量減少
- 「ソマチュリン^{*4}」や「ゼオメイン^{*5}」の販売量が順調に拡大
- 薬価改定影響あり
- 2023年1月に骨粗鬆症治療剤「オスタバロ 1.5mg」上市
- 2023年3月に腎疾患を対象とした自社創製低分子化合物について、Novartis AGと独占的ライセンス契約を締結。契約一時金として30百万米ドルを取得

■ 在宅医療

- HOT：入院抑制により在宅療養へのシフトが継続したもののCOVID-19による酸素濃縮器の導入は落ち着きつつあり、レンタル台数は前年度並み
- CPAP：COVID-19 第8波等の影響により検査数の回復はやや鈍化したものの、レンタル台数の増加が継続（前年度末対比約5%増）

*3 痛風・高尿酸血症治療剤

*4 先端巨大症・下垂体性巨人症/甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍/膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤

ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma（仏）の登録商標です

*5 上肢・下肢痙縮治療剤。ゼオメイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA（独）の登録商標です

◆ 繊維・製品セグメント [前年度対比]

	(億円)				(参考) 22年度見通し*1
	21年度	22年度	差異	増減率	
売上高	2,825	3,218	+393	+13.9%	3,200
EBITDA	121	169	+48	+39.4%	160
減価償却費	65	69	+4	+6.8%	65
営業利益	56	100	+43	+76.8%	95
営業利益ROIC	4%	7%	+3%	-	7%

◆ ITセグメント [前年度対比]

	(億円)				(参考) 22年度見通し*1
	21年度	22年度	差異	増減率	
売上高	538	580	+43	+7.9%	600
EBITDA	108	88	-20	-18.6%	100
減価償却費	11	7	-4	-35.7%	10
営業利益	97	81	-16	-16.6%	90
営業利益ROIC	61%	53%	-9%	-	52%

*1 2023年2月8日公表

■ 繊維・製品セグメント (増収・増益)

- 産業資材分野：自動車関連部材、人工皮革、水処理フィルター向けポリエステル短繊維は堅調
- 衣料繊維分野：欧米・中国向けのテキスタイル・衣料品の販売が好調に推移し、国内でも行動制限の緩和により衣料品の販売が回復傾向
- 原燃料価格や物流費の高騰、円安影響による仕入れコスト上昇が業績に影響したものの、繊維原料・テキスタイルの販売価格改定を遂行

■ ITセグメント (増収・減益)

- ネットビジネス分野では、電子コミックサービスにおいて宣伝活動の強化を継続し減益となったものの、販売は好調に推移
- ITサービス分野では、ヘルスケア事業にCOVID-19影響が残ったものの、堅調に推移

■ その他 エンジニアリング事業、埋込型医療機器事業、再生医療事業 等

- 埋込型医療機器事業において、販売好調により増収
- (株) ジャパン・ティッシュエンジニアリング (J-TEC) において、2023年3月に、白斑治療の新製品として、メラノサイト含有自家培養表皮「ジャスミン」の製造販売承認を取得

◆ 営業外損益 [前年度対比]

	(億円)		
	21年度	22年度	差異
受取利息	5	13	+8
受取配当金	12	13	+1
持分法による投資利益	56	-	-56
デリバティブ評価益	65	56	-9
その他	14	10	-4
営業外収益 計	151	92	-59
支払利息	33	71	+38
持分法による投資損失	-	11	+11
為替差損	38	30	-8
デリバティブ評価損	3	1	-2
その他	23	16	-6
営業外費用 計	96	129	+33
営業外損益 計	55	-38	-92

◆ 特別損益 [前年度対比]

	(億円)		
	21年度	22年度	差異
固定資産売却益	1	59	+58
投資有価証券売却益	57	55	-3
減損損失戻入益	11	23	+13
その他	8	2	-6
特別利益 計	77	139	+62
固定資産除売却損	21	18	-2
投資有価証券評価損	5	37	+32
減損損失	89 ^{*1}	169 ^{*2}	+80
その他	18	21	+3
特別損失 計	133	245	+112
特別損益 計	-56	-106	-50

*1複合成形材料事業（中国）の固定資産等に係る減損損失50億円他

*2複合成形材料事業（TAT-US社）に関するのれんに係る減損損失153億円他

◆ 財政状態 [前年度末対比]

				(億円)	
	22年 3月末	23年 3月末	差異	内 為替 換算影響	
総資産	12,076	12,424	+349	+309	
負債	7,428	7,913	+486	+158	
(内 有利子負債)	4,852	5,294	+443	+118	
純資産	4,648	4,511	-137	+150	
D/Eレシオ ^{*1}	1.10	1.25	+0.14	-	
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*2}	0.97	1.10	+0.13	-	

◇ 総資産 増減内訳

	(億円)		
	22年 3月末	23年 3月末	差異
現金及び預金	1,345	1,428	+83
売上債権 ^{*4}	1,968	1,865	-104
棚卸資産	1,646	1,967	+321
固定資産	5,063	5,084	+21
投資有価証券	850	821	-29
その他	1,204	1,259	+55
総資産 計	12,076	12,424	+349

◆ キャッシュ・フローの状況 [前年度対比]

	(億円)		
	21年度	22年度	差異
営業活動	897	551	-346
投資活動	-1,984 ^{*3}	-524	+1,459
フリー・キャッシュ・フロー	-1,087	27	+1,114
財務活動他	730	70	-660
現金及び現金同等物増減	-358	96	+454

◇ BS換算レート

	22年	23年
	3月末	3月末
円/米ドル	122	134
円/ユーロ	137	146

*1 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*2 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

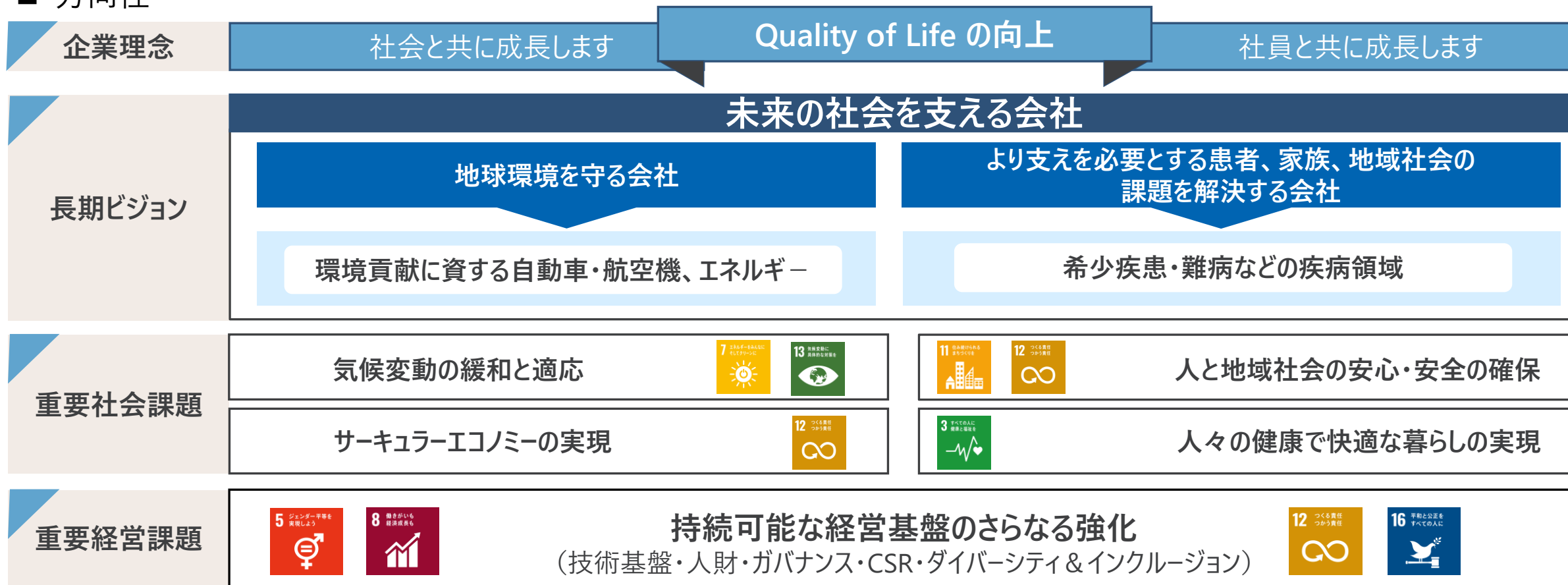
*3 糖尿病薬販売権等承継 (無形固定資産増 (1,324億円)) 等

*4 契約資産含む

2. 2023年度業績見通し

◆ 中長期の方向性

■ 方向性



■ 2023年3月31日付東証通知「資本コスト、株価を意識した経営の実現に向けた対応」に対する当社の対応方針

- 外部環境激変の影響もあるが、当社の経営成績は複数事業での収益性悪化等から低位が継続し市場評価の一つであるPBRが1倍割れの状況
- 2023年度は「収益性改善に向けた改革」で掲げた施策を最優先課題として注力
- 2024年度に資本効率も意識した事業ポートフォリオ再構築の検討を踏まえた新中期経営計画の公表を予定している

◆ 帝人グループ 収益性改善に向けた改革 まとめ

2023年度は課題3事業の収益性改善と将来の成長選択肢を決定。新中期経営計画は2024年度に公表する

2023年度実施事項

- 課題事業の収益性改善と役員・スタッフの経営体制変革を中心に、全社で構造改革を断行する
- これらの成果として、2023年度までに **300億円以上の収益改善**を目指す

収益性改善

- **複合成形材料：工場設備復旧、改善施策**（北米事業の改善が見られない場合は事業売却等の可能性も含め事業継続可否を判断）
[約130個の改善策を策定し、現場レベルに落とし込み] [本社によるモニタリング体制強化も含め、実行力強化を図り推進]
→価格改定交渉・生産性改善進捗中
- **アラミド：火災影響回復、販売増、天然ガス価格低下**
[火災を契機として現場力強化の取り組みを日蘭チームにて改めて実施] [「安全」「品質」といった強みの再強化を図る]
→火災復旧：2022年度4Qに前倒しで稼働再開、2023年度1Q中にフル稼働予定
- **ヘルスケア：長期ビジョンの具体化に向けた事業変革**（ビジョン実現へ注力領域を絞込み）
[既存製品極大化] [事業基盤を活かすことのできる希少疾患・難病等の医薬品導入活動] [見合ったりソース規模への構造改革]
→アクセリード社（創薬ソリューションプロバイダー）との創薬研究に関する合弁会社設立の基本合意
- 本社スタッフ：2025年度までの固定費40億円削減に向け着手

経営体制変革

- **外部環境にレジリエントに対応するため、経営判断・実行の迅速化を実現**
 - ・グループ経営責任と事業収益責任の明確化：経営役員と事業担当役員を設置
 - ・事業運営機能の強化：事業本部をCEO直轄に集約し組織階層をフラット化
 - ・本社機能の見直し：全社戦略立案・実行機能を強化

◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比]

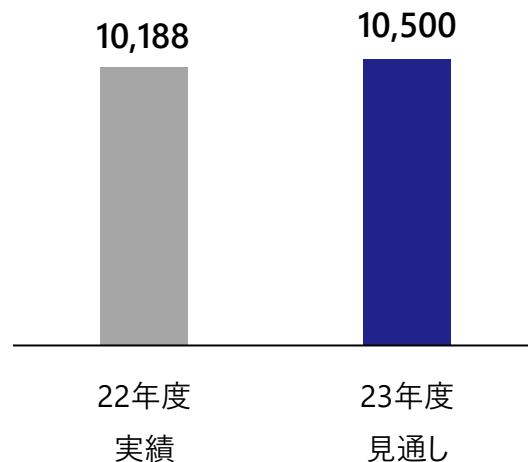
【前年度対比】

- 売上高は、マテリアルにおける生産能力増強の効果発現等による販売量増加、前年度の米欧拠点での生産トラブルの解消等で増収を見込む
- 営業利益は、マテリアルにおける生産性改善、追加的な販売価格改定、増産/増販などの収益性改善施策の発現や、前年度一時的に発生した米欧拠点での生産トラブルの解消等が、ヘルスケアの後発品参入の影響をカバーし増益となる見通し

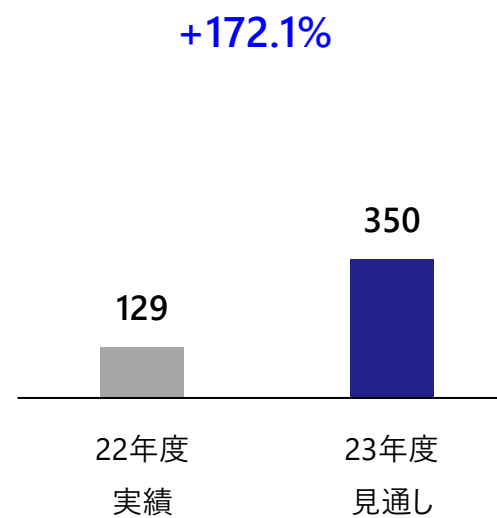
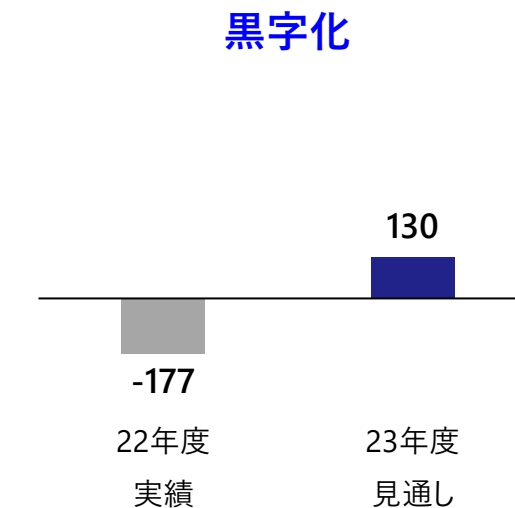
(単位：億円)

前年度対比

売上高



営業利益

親会社株主に帰属する
当期純利益

前提条件

		22年度	23年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	135	135
	円/ユーロ	141	140
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		92	80
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		116	70

2023年度配当金見通し

中間 15円/株, 期末 15円/株, 年間 30円/株
 (2022年度：中間 27.5円/株 期末12.5円/株 年間40円/株)

◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比]

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し	差異	増減率
売上高	10,188	10,500	+312	+3.1%
営業利益	129	350	+221	+172.1%
経常利益	91	310	+219	+240.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	-177	130	+307	-
ROE ^{*1}	-4.1%	3%	+7%	
営業利益ROIC ^{*2}	1.6%	4%	+3%	
EBITDA ^{*3}	878	1,130	+252	
フリー・キャッシュ・フロー	27	0	-27	
設備投資 ^{*4}	625	850	+225	
減価償却費 ^{*5}	749	780	+31	
研究開発費	319	330	+11	
D/Eレシオ ^{*6}	1.25	1.2	-0.0	
D/Eレシオ（資本性調整後） ^{*7}	1.10	1.1	+0.0	

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出（*投下資本＝純資産＋有利子負債－現金及び預金）

*3 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *4 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&Aを含まず）

*5 のれん償却含む *6 「有利子負債÷自己資本」にて算出（グロス表示）

*7 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

	(億円)			
	22年度 実績	23年度 見通し	差異 ^{*1}	増減率
売上高				
マテリアル	4,560	4,700	+140	+3.1%
ヘルスケア	1,524	1,400	-124	-8.1%
繊維・製品	3,218	3,150	-68	-2.1%
IT	580	650	+70	+12.0%
その他	305	600	+295	+96.5%
合計	10,188	10,500	+312	+3.1%

	(億円)			
	22年度 実績	23年度 見通し	差異 ^{*1}	増減率
営業利益				
マテリアル	-204	110	+314	-
ヘルスケア	235	165	-70	-29.8%
繊維・製品	100	100	+0	+0.3%
IT	81	90	+9	+11.2%
その他	-24	-35	-11	-
消去又は全社	-59	-80	-21	-
合計	129	350	+221	+172.1%

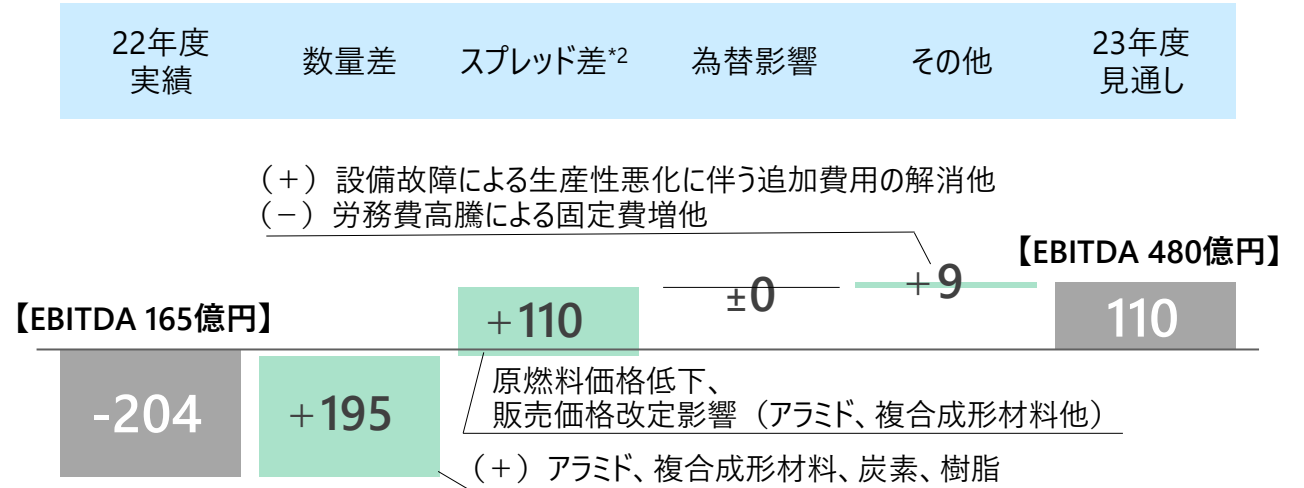
セグメント	営業利益の方向・要因	
全体		・マテリアルの回復が大きく寄与
-マテリアル		・収益性改善施策の効果発現 ・火災、設備故障などの一時的要因からの回復
-ヘルスケア		・医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響
-繊維・製品		・衣料繊維、産業資材とも国内外で堅調な需要が継続
-IT		・堅調なネットビジネスにより増益を見込む

*1 2023年度より「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメント内の新事業組織を全社共通セグメントである「その他」へ区分変更し、見通しに反映。移管対象となる金額は以下の通り。（セグメント変更についてはP25を参照）
「マテリアル」：売上高160億円、営業利益+10億円 「ヘルスケア」：売上高30億円、営業利益▲20億円

◆ マテリアルセグメント [前年度対比]

	(億円)		
	22年度 実績	23年度 見通し	差異*1
売上高			
高機能材料	2,922	2,900	-22
複合成形材料	1,638	1,800	+162
計	4,560	4,700	+140
EBITDA	165	480	+315
減価償却費	369	370	+1
営業利益	-204	110	+314
営業利益ROIC	-5%	3%	+8%

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度見通しよりEBITDAから営業利益に変更 (億円)



サブセグメント	営業利益の方向・要因
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> 生産制約解消や増設効果の発現による増産・増販 原料工場の火災等による影響解消 天然ガス価格の低下
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 需要低迷の影響が残るも、期後半にかけて販売回復
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> 航空機需要のさらなる回復に伴う販売構成改善 北米新工場フル稼働による販売量増
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> 価格再交渉、コスト削減施策等による収益性改善 設備故障による一時的な生産性悪化に伴う追加費用の解消 労働力不足影響の低下

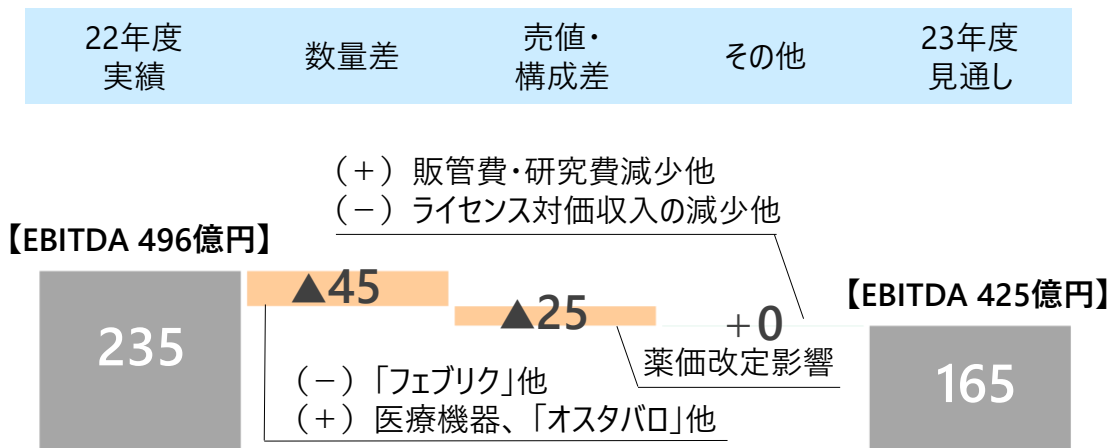
*1 2023年度より「マテリアル」セグメント内の新事業組織を全社共通セグメントである「その他」へ区分変更し、見通しに反映。移管対象となる金額は次の通り。売上高：160億円、営業利益：+10億円

*2 売値・構成差 + 原燃料単価差

◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比]

	(億円)		
	22年度 実績	23年度 見通し	差異*1
売上高	1,524	1,400	-124
EBITDA	496	425	-71
減価償却費	261	260	-1
営業利益	235	165	-70
営業利益ROIC	13%	10%	-3%

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度見通しよりEBITDAから営業利益に変更 (億円)



サブセグメント	営業利益の方向・要因
医薬・在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> (-) 医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減 (-) 薬価改定影響 (-) ライセンス対価収入の減少 (+) 医薬品「オスタバロ」の増販 (+) 医療機器の販売量・レンタル台数増

*1 2023年度より「ヘルスケア」セグメント内の新事業組織を全社共通セグメントである「その他」へ区分変更し、見通しに反映。移管対象となる金額は次の通り。売上高：30億円、営業利益：▲20億円

◆ 繊維・製品セグメント [前年度対比]

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し	差異
売上高	3,218	3,150	-68
EBITDA	169	170	+1
減価償却費	69	70	+1
営業利益	100	100	+0
営業利益ROIC	7%	7%	-0%

◆ ITセグメント [前年度対比]

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し	差異
売上高	580	650	+70
EBITDA	88	100	+12
減価償却費	7	10	+3
営業利益	81	90	+9
営業利益ROIC	53%	66%	+14%

◆ その他セグメント [前年度対比]

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し	差異
売上高	305	600	+295
EBITDA	11	25	+14
減価償却費	35	60	+25
営業利益	-24	-35	-11

■ 繊維・製品セグメント

営業利益の方向・要因



- (+)産業資材：自動車関連の市況回復、水処理フィルター向けポリエステル短繊維販売伸長
- (-)衣料繊維：海外市場弱含み懸念

■ ITセグメント

営業利益の方向・要因



- (+)ネットビジネス：電子コミックサービスの伸長
- (+)ITサービス：病院向け、企業向けともに堅調に推移

■ その他

営業利益の方向・要因

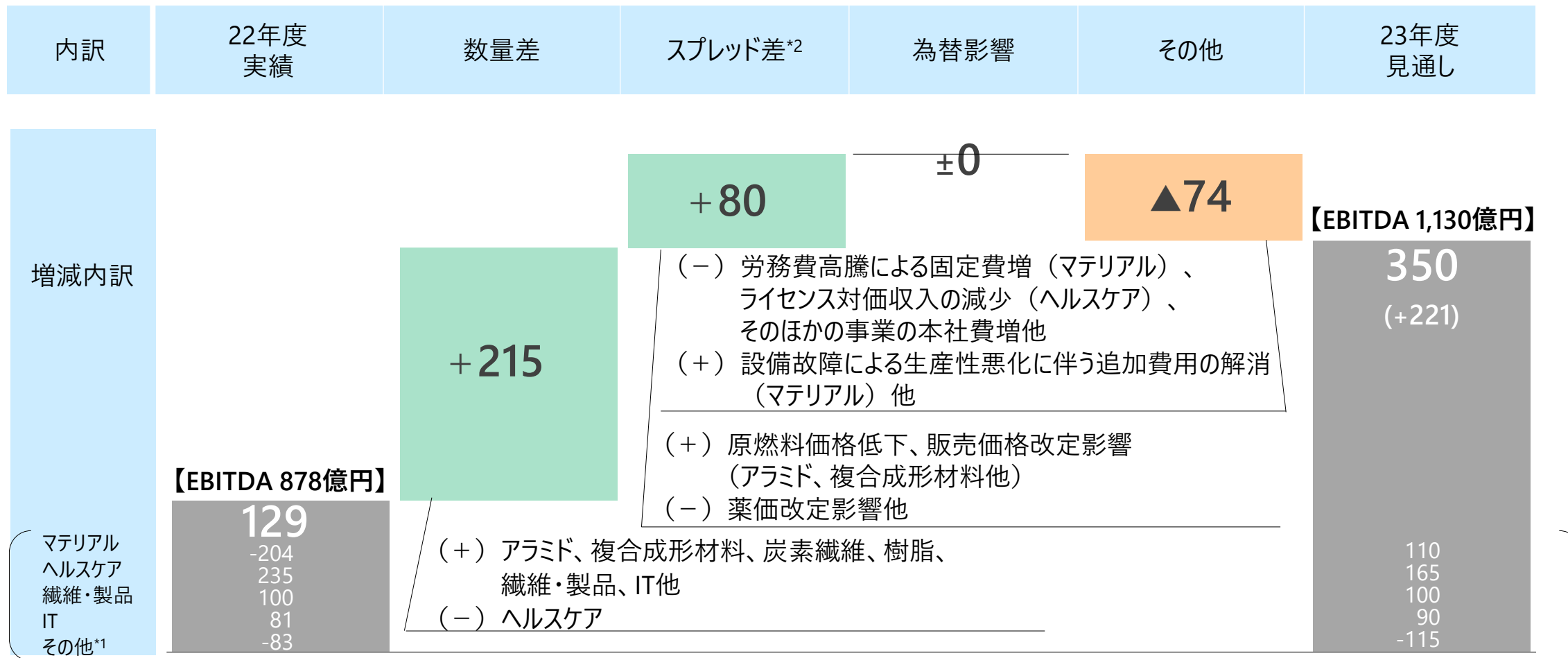


- (+)再生医療・埋込医療機器分野：J-TECにおける販売増、埋込医療機器事業の販売好調
- (±)電池部材・膜：セパレータのスマートフォン向けは堅調
- (-)再生医療・埋込医療機器分野：CDMO事業立ち上げに伴う労務費・経費増
- (-)全体：組織再編影響

2023年度業績見通し 営業利益増減要因（前年度対比） *2023年度見通しよりEBITDAから営業利益に変更

- マテリアルにおける生産性改善、追加的な販売価格改定、増産/増販などの収益性改善施策の発現や、前年度一時的に発生した米欧拠点での生産トラブルの解消等が、ヘルスケアの後発品参入の影響をカバーし増益となる見通し

(億円)



*1 その他は「その他」及び「消去又は全社」の合計としている

*2 売値・構成差 + 原燃料単価差

財務健全性・株主還元方針

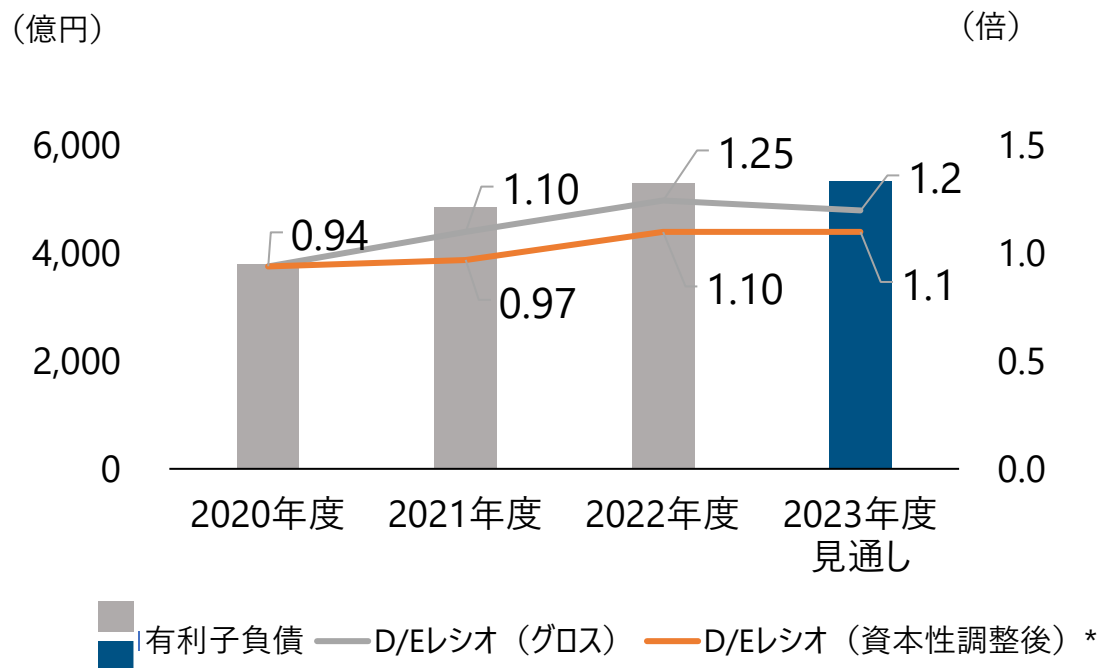
財務健全性

- 「収益性改善に向けた改革」に合わせ財務規律管理を強化し、過去2年間悪化傾向にあった財務健全性は若干ながら改善（D/Eレシオ（資本性調整後）1.1倍の見通し）

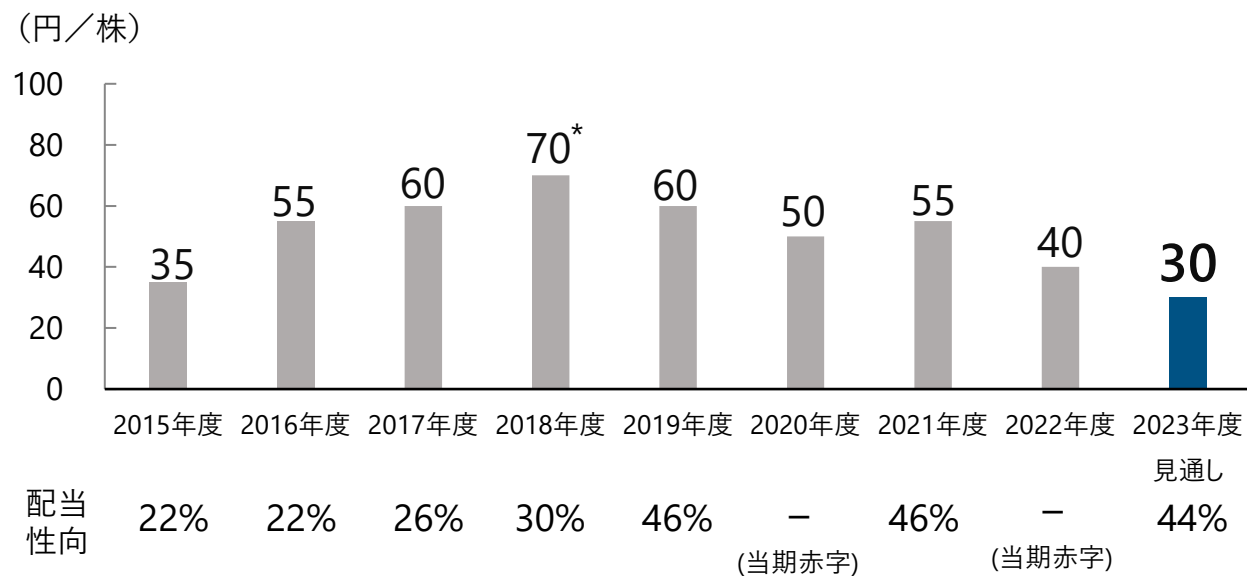
株主還元方針

- 「安定的・継続的な配当」・「中期的な配当性向は当期純利益の30%を目安」とする配当方針は変えず
- 2023年度の1株当たり配当金については、中間15円、期末見通し15円の年間30円を予定（前年度期末配当（12.5円）対比+2.5円の予定）

有利子負債・D/Eレシオ推移



一株当たり配当金推移



*100周年記念配当10円/株を含む

*劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

注）2016年10月1日をもって普通株式5株を1株に併合。配当金は株式併合の影響を踏まえて換算

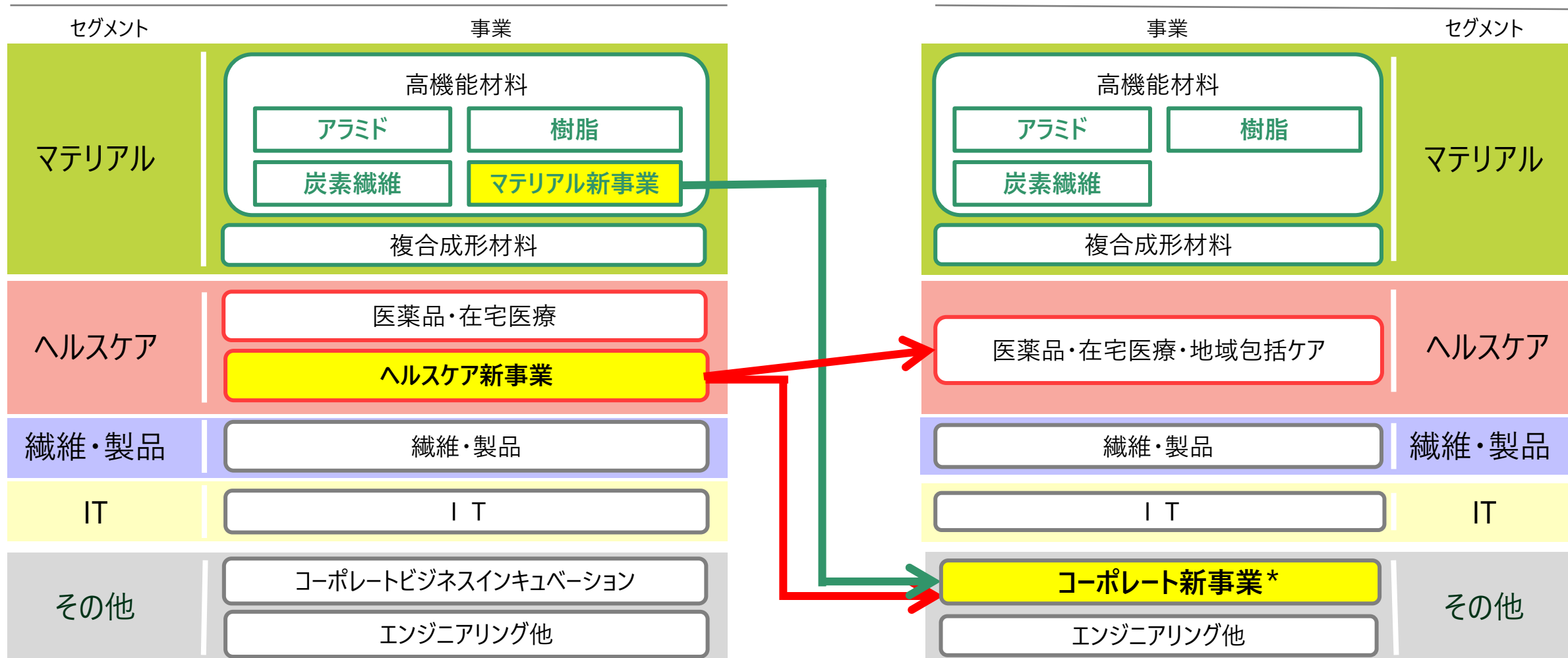
3. 参考資料

開示セグメントの変更

将来投資の領域となる新規事業、事業間の協創によるイノベーションの創出をコーポレートにて横断的に実施する体制へ
 (マテリアル、ヘルスケア内の新事業をコーポレートインキュベーション部門と統合し、コーポレート新事業本部として再編)

～2022年度

2023年度～



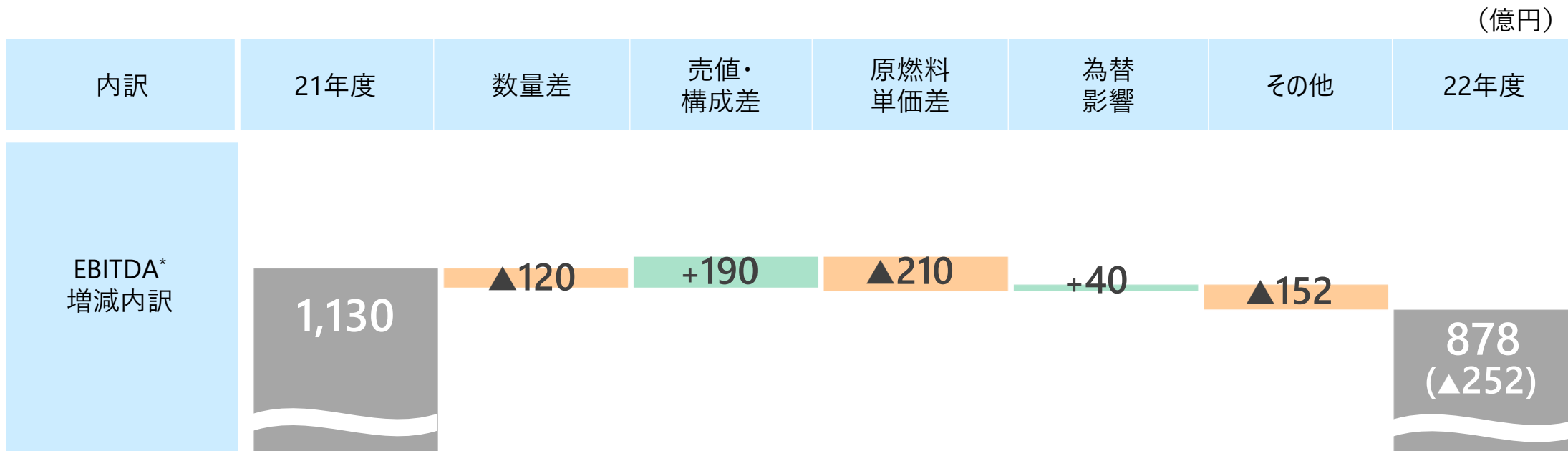
*再生医療・埋込医療機器、電池部材・メンブレン、ピオリエ・ニュートラシューティカル、環境ソリューション等

定常的な損益影響要因

セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">アラミド大型定修は3年に一度（次回は2024年度1Q）樹脂は毎年2Q、3Qに定修
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">4Qに経費集中傾向
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none">衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン
IT	<ul style="list-style-type: none">2Q、4Qはシステム検収時期で納入増

◆ EBITDA*¹増減 (連結合計) [前年度対比]

	21年度	22年度	差異	増減率	(億円)
					(参考) 22年度見通し* ²
売上高	9,261	10,188	+927	+10.0%	10,300
EBITDA* ¹	1,130	878	-252	-22.3%	850
減価償却費	688	749	+61	+8.9%	750
営業利益	442	129	-313	-70.9%	100
営業利益ROIC	5.5%	1.6%	-4.0%	-	1%



*1 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出 *2 2023年2月8日公表

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年度対比 (累計)]

(億円)

	21年度*					22年度					前年差異	増減率
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間		
売上高												
高機能材料	693	703	663	675	2,735	699	812	723	688	2,922	+187	+6.8%
複合成形材料	264	248	274	330	1,116	375	440	416	408	1,638	+523	+46.8%
マテリアル 計	958	950	937	1,006	3,851	1,074	1,252	1,139	1,096	4,560	+709	+18.4%
ヘルスケア	440	430	466	415	1,751	436	351	365	371	1,524	-227	-13.0%
繊維・製品	655	680	734	756	2,825	736	848	821	813	3,218	+393	+13.9%
IT	135	137	126	139	538	129	144	143	164	580	+43	+7.9%
その他	71	77	73	75	296	63	72	78	93	305	+9	+3.1%
合計	2,259	2,275	2,336	2,390	9,261	2,438	2,666	2,546	2,537	10,188	+927	+10.0%
営業利益												
マテリアル	21	12	-81	-9	-57	-7	-37	-75	-84	-204	-147	-
ヘルスケア	133	109	134	57	433	108	39	52	37	235	-198	-45.7%
繊維・製品	20	16	9	11	56	19	34	29	18	100	+43	+76.8%
IT	21	27	21	29	97	15	20	19	27	81	-16	-16.6%
その他	-4	-7	-2	-9	-23	-11	-8	-4	-1	-24	-1	-
消去又は全社	-19	-13	-14	-19	-64	-15	-12	-15	-16	-59	+5	-
合計	173	142	67	60	442	108	35	6	-20	129	-313	-70.9%

*2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同四半期対比、直前四半期対比]

	21年度*					22年度					(億円)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	差異 22/4Q -21/4Q	差異 22/4Q -22/3Q
売上高												
高機能材料	693	703	663	675	2,735	699	812	723	688	2,922	+13	-35
複合成形材料	264	248	274	330	1,116	375	440	416	408	1,638	+78	-9
マテリアル 計	958	950	937	1,006	3,851	1,074	1,252	1,139	1,096	4,560	+90	-44
ヘルスケア	440	430	466	415	1,751	436	351	365	371	1,524	-44	+6
繊維・製品	655	680	734	756	2,825	736	848	821	813	3,218	+57	-8
IT	135	137	126	139	538	129	144	143	164	580	+25	+21
その他	71	77	73	75	296	63	72	78	93	305	+18	+15
合計	2,259	2,275	2,336	2,390	9,261	2,438	2,666	2,546	2,537	10,188	+146	-10
営業利益												
マテリアル	21	12	-81	-9	-57	-7	-37	-75	-84	-204	-75	-9
ヘルスケア	133	109	134	57	433	108	39	52	37	235	-20	-15
繊維・製品	20	16	9	11	56	19	34	29	18	100	+7	-11
IT	21	27	21	29	97	15	20	19	27	81	-2	+7
その他	-4	-7	-2	-9	-23	-11	-8	-4	-1	-24	+8	+3
消去又は全社	-19	-13	-14	-19	-64	-15	-12	-15	-16	-59	+3	-1
合計	173	142	67	60	442	108	35	6	-20	129	-80	-26

*2022年度より埋込型医療機器事業について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2021年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示している

◆ 連結損益計算書 四半期推移

(億円)

	21年度				22年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,259	2,275	2,336	2,390	2,438	2,666	2,546	2,537
売上原価	1,550	1,587	1,699	1,714	1,749	2,040	1,968	1,949
売上総利益	709	688	638	676	689	626	578	588
販管費	536	546	571	616	581	592	572	607
営業利益	173	142	67	60	108	35	6	-20
営業外損益	12	-0	20	23	35	22	-31	-64
(内 金融収支)	-2	-5	-4	-5	-4	-11	-20	-10
(内 持分法投資損益)	15	14	14	12	12	13	13	-50
経常利益	184	142	87	84	143	57	-25	-84
特別損益	-19	34	8	-78	2	-4	-81	-23
税金等調整前四半期純利益	165	176	94	6	145	53	-106	-106
法人税等	61	51	45	24	67	43	39	-6
非支配株主に帰属する 四半期純利益	7	7	7	8	5	7	0	6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	98	118	43	-27	73	3	-146	-106

◆ 連結貸借対照表 四半期推移

(億円)

	21年度				22年度			
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末
資産								
流動資産	5,389	5,517	5,537	5,720	6,030	6,331	6,088	6,133
固定資産	6,461	6,171	6,220	6,356	6,623	6,720	6,302	6,291
合計	11,850	11,688	11,757	12,076	12,653	13,051	12,390	12,424
負債・純資産								
負債	7,439	7,182	7,209	7,428	7,854	8,222	7,863	7,913
(内 有利子負債)	5,029	4,828	4,729	4,852	5,178	5,447	5,236	5,294
純資産	4,411	4,506	4,548	4,648	4,799	4,829	4,527	4,511
合計	11,850	11,688	11,757	12,076	12,653	13,051	12,390	12,424

◆ セグメント別経営指標 [前年度対比]

	22年度 実績	23年度 見通し	差異
営業利益ROIC ^{*1}			
マテリアル	-5%	3%	+8%
ヘルスケア	13%	10%	-3%
繊維・製品	7%	7%	-0%
IT	53%	66%	+14%
合計	1.6%	4%	+3%

◆ 主要経営指標推移

	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 見通し
ROE ^{*2}	11.2%	6.3%	-1.7%	5.5%	-4.1%	3%
営業利益ROIC ^{*1}	9.3%	8.7%	8.6%	5.5% ^{*6}	1.6%	4%
EBITDA ^{*3} (億円)	1,076	1,072	1,068	1,130	878	1,130
1株当たり当期純利益 (円)	232.4	131.6	-34.7	120.6	-92.0	67.6
1株当たり配当金 (円)	70 [*]	60	50	55	40	30
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	10,207	10,042	10,411	12,076	12,424	12,500
有利子負債 (億円)	3,692	3,819	3,800	4,852	5,294	5,350
D/Eレシオ ^{*4}	0.90	0.97	0.94	1.10	1.25	1.2
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*5}	-	-	-	0.97	1.10	1.1
自己資本比率	40.2%	39.3%	39.0%	36.4%	34.2%	34%

1 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*5 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*6 期首の投下資本は糖尿病薬販売権等承継による増加を含めて算出

◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	21年度					22年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
フェブリク®	痛風・高尿酸血症治療剤	96	97	106	89	388	87	17	23	18	145
糖尿病治療剤四剤合計		75	70	74	56	275	69	62	67	50	248
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	36	33	35	27	131	34	31	33	25	122
イニシンク®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	21	20	21	17	79	20	18	20	15	74
リオバル®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	12	10	11	8	41	10	9	9	6	34
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	7	6	7	5	25	5	5	4	3	17
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	20	20	21	17	78	18	18	18	15	69
ソマチユリン®*2	先端巨大症・下垂体性巨人症、甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	13	13	15	12	54	14	14	15	14	57
ベニロン®	重症感染症治療剤	12	12	13	9	46	10	11	12	11	44
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	6	4	20	5	5	5	4	19
ゼオマイン®*3	上下肢痙縮治療剤	0.5	2	4	4	10	4	4	5	5	18
ムコソルバン®	去痰剤	5	5	7	5	22	4	4	5	4	18

*1 ボナロン®/Bonalon® はNV Organon(蘭)の登録商標です *2 ソマチユリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です

*3 ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独)の登録商標です

◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの5つのESG指数全ての構成銘柄に採用されています



FTSE Blossom
Japan Index

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)



2023 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

(注) MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れ及び帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCI及びMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得しました

MSCI
ESG RATINGS



CCC B BB BBB A AA **AAA**

日経SDGs経営調査で非常に高い評価を得ています



・ 4分野全てにおいて「S以上」の高評価

SRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good



ESGへの取り組みが優れている企業として、2つの国内プログラムに選定されています

健康経営推進



スポーツエールカンパニー
(ブロンズ認定*)



* 認定回数5回～6回
の企業の呼称

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions